

ADB、世界金融危機下の域内支援策として 30 億ドル規模のファシリティを設立へ

【バリ、2009年5月2日】アジア開発銀行(ADB)は、途上加盟国に対する支援として、「景気循環相殺政策支援ファシリティ」(The Countercyclical Support Facility (CSF))の創設を提案した。同ファシリティは、ADBの途上加盟国が世界経済危機を克服し、長期にわたり持続的成長をとげていく上で必要な財政支出に対する緊急支援に充てられる。インドネシア・バリで開催中のADBの第42回年次総会の記者会見で、黒田^{はるひこ}東彦総裁が明らかにした。同基金はADB理事会の承認を得て実施される。

ADBには既に、類似の短期融資として「特別プログラム融資(SPL)ファシリティ」があるが、CSFはSPLより低い借入コストで、よりスピーディに実施される。対象国はADBの途上加盟国のうち、ADBの通常資本財源(OCR)からの借入れ資格を有する国となる。OCRは、中所得国を対象に市場金利に近い条件で融資されている。

黒田総裁は、「(CSFは)経済的に弱い国を支える上で、大変すばらしいイニシアチブだ。最も重要なことは、経済危機の影響から貧困層を守るという点だ」と述べた。

ADBでは4月30日、現在の550億ドルから3倍の1650億ドルに増資することを各国総務が可決・承認したばかりで、3倍の増資により、世界不況の影響を受けている国々への支援を大幅強化できる見通しとなっており、CSFはそうした支援策の一環である。

CSFをはじめとするADBの危機関連プログラム案については、黒田総裁が記者会見で発表した報告書「世界経済危機：アジア途上国の課題とADBの対応(仮)」(*The Global Economic Crisis: Challenges for Developing Asia and ADB's Response*)の中で概要が明らかになっている。同報告書によれば、ADBでは2009-10年の2年間で100億ドル以上を追加融資する計画で、これにより上記2年間のADBの支援総額は約320億ドルとなる見通し(2007-08年の2年間の支援総額は約220億ドル)。

ADBでは危機対応策として、プロジェクト投資のほか、政策連動型融資の迅速な実施、保証、さらにCSFのようなニーズに特化した形の支援も新たに行っていく。また、政策分析や各国の対応能力強化プログラムに対する支援も予定している。

お問い合わせ先

駐日代表事務所
広報官: 望月 章子
T: +81 3 3504-3441/3160
E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにでも
ご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>

輸出依存型のアジア経済は、米・欧といった主要先進国経済における需要の落込みにより大きな打撃を受けている。一部のアジア国は輸出の低迷を内需拡大で補うべく財政支出を打ち上げているが、そうした対策をとれない国もある。また、世界不況が当初の予想より深刻かつ長期化するとの見通しもあることから、各国はより深刻な状況に直面する可能性もある。

CSFから借り入れた場合のコストは通常のADB融資の金利より2%程度高くなるが、ADBが1997-98年のアジア通貨危機発生後に、国際収支面での問題解決策として設立したSPLよりも低く設定されている。現在の途上加盟国の多くは、こうした問題はない。

ADBの経済見通し(ADO2009)によれば、アジアの44の途上国の平均成長率は2009年が3.4%、2010年が6.0%とみられている。経常黒字の対GDP比は2008年には5.3%だったが、本年は4.9%、2010年は4.7%まで下落するとみられる。

ADBの年次総会には、加盟各国の財務大臣や政府高官、ビジネスリーダー、学術研究者、報道関係者、国際機関やNGO代表などが参加し、アジアの貧困をいかに効果的に削減し、持続的な経済成長を確保するかにつき、議論が交わされる。

お問い合わせ先

駐日代表事務所
広報担当: 望月 章子
T: +81 3 3504-3441/3160
E-mail: amochizuki@adb.org

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにも
ご覧いただけます。
<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>